

1 山村の現状

- 山村振興法に基づき指定された「振興山村」を有する市町村(以下「山村」という。)の数は、全国で734(全市町村数の43%)となっている。
- 振興山村は国土の脊梁地帯を中心に位置し、広大な森林と豊かな自然環境を有しており、全国の林野面積の61%、耕地面積の22%、総人口の3%を占めている。
- 振興山村の土地利用状況は、林野面積85%、耕地面積4%となっている。

◇ 全国における山村の位置付け

	山村	全国	対全国比
市町村数 (H26. 4. 1現在)	734 (200)	1,719	43%
〃 (H17. 4. 1現在)	913 (340)	2,395	38%
旧市町村数 (S25. 2. 1現在)	2,104	11,241	19%

	振興山村	全国	対全国比
総面積(万ha) (H22. 2. 1現在)	1,785	3,779	47%
うち林野面積	1517 < 85% >	2,485	61%
うち経営耕地面積	78 < 4% >	363	22%
人口(万人) (H22. 10. 1現在)	393	12,806	3%

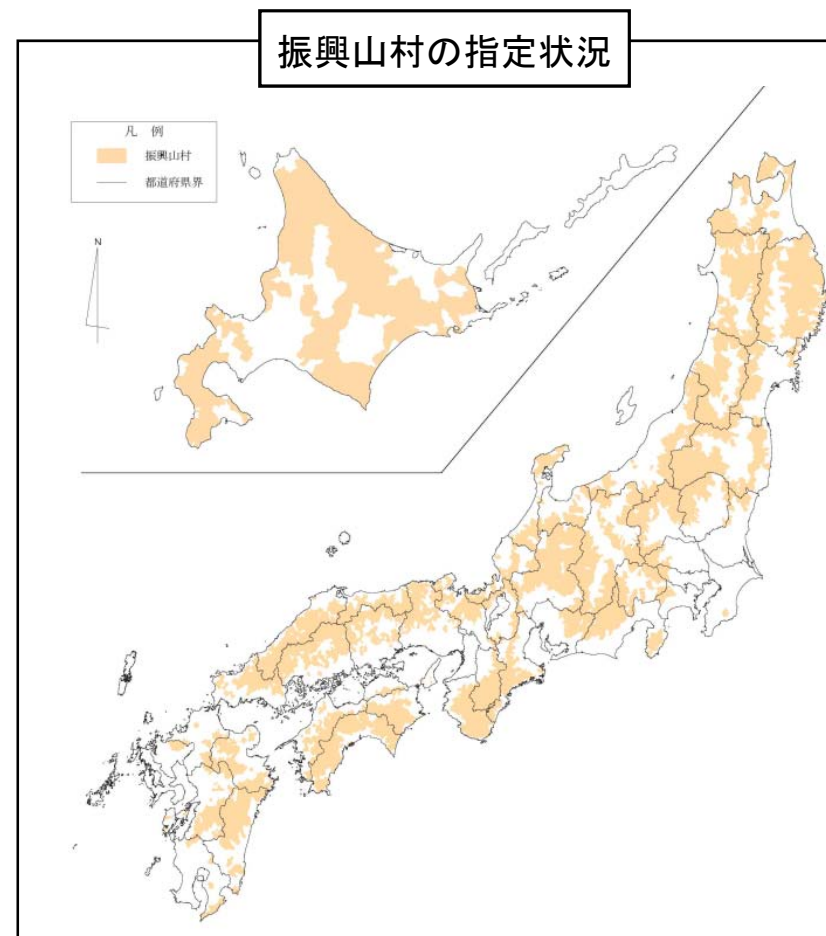
資料：農林水産省「2010年農林業センサス」、「山村カード調査」、総務省「国勢調査」

注1: 市町村の全域が「振興山村」となっている市町村を「全部山村」、市町村の一部が「振興山村」となっている市町村を「一部山村」という。

注2: ()内は、全部山村の市町村数である。

注3: < >内は、振興山村の総面積に占める林野面積、耕地面積の割合を示す。

注4: 林野面積とは、現況森林面積に森林以外の草生地の面積を加えた面積をいう。



2 山村の果たす役割

- 山村は、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の多面にわたる機能を有している。
- こうした機能は、山村における農業生産活動や森林の整備等を通じて発揮されるものであり、山村は、我が国の農林水産業の発展や国民生活及び国民経済の安定に寄与するなどの重要な役割を果たしている。

◇ 森林の有する多面的機能

○ 土砂災害防止／土壌保全 ・表面浸食防止【28.3兆円/年】 ・表層崩壊防止【8.4兆円/年】		○ 水源かん養 ・洪水緩和【6.5兆円/年】 ・水資源貯留【8.7兆円/年】 ・水質浄化【14.6兆円/年】	
○ 保健・レクリエーション ・保養【2.3兆円/年】 ・行楽、スポーツ、療養		○ 地球環境保全 ・二酸化炭素吸収【1.2兆円/年】 ・化石燃焼代替エネルギー【0.2兆円/年】 ・地球の気候の安定	
○ 物質生産 ・木材(建築材、燃料材等) ・食料(きのこ、山菜等)		○ 生物多様性保全 ・遺伝子保全 ・生物種保全 ・生態系保全	
○ 快適環境形成 ・気候緩和 ・大気浄化 ・快適生活環境形成		○ 文化 ・景観・風致 ・宗教・祭礼 ・学習・教育 ・伝統文化 ・芸術 ・地域の多様性維持	

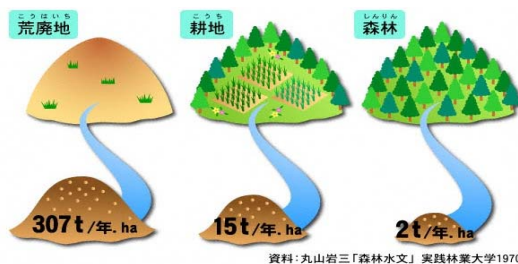
資料:「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価に関する調査研究報告書」((株)三菱総合研究所 平成13年11月現在)
 注:【】内の金額は、森林の多面的機能のうち、物理的な機能を中心に貨幣評価が可能一部の機能について評価(年間)したものの、いずれの評価方法も、一定の仮定の範囲においての数字であり、その適用に当たっては注意が必要。

◇ 農業の多面的機能

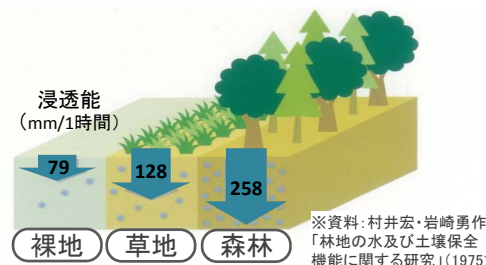
機能	評価額 (兆円/年)
土砂崩壊防止機能	0.5
土壌侵食防止機能	0.3
洪水防止機能	3.5
河川流況安定機能	1.5
地下水かん養機能	0.1
保健休養・やすらぎ機能等	2.4

資料:日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」(平成13年11月1日答申)
 注:上表の評価額については、一定の仮定の範囲における試算であり、評価された機能は、農業の多面的機能のごく一部であることに留意する必要がある。
 注:保健休養・やすらぎ機能等には、有機性廃棄物分解機能と気候緩和機能を含む。

【森林の国土保全機能】 流出土砂量の比較



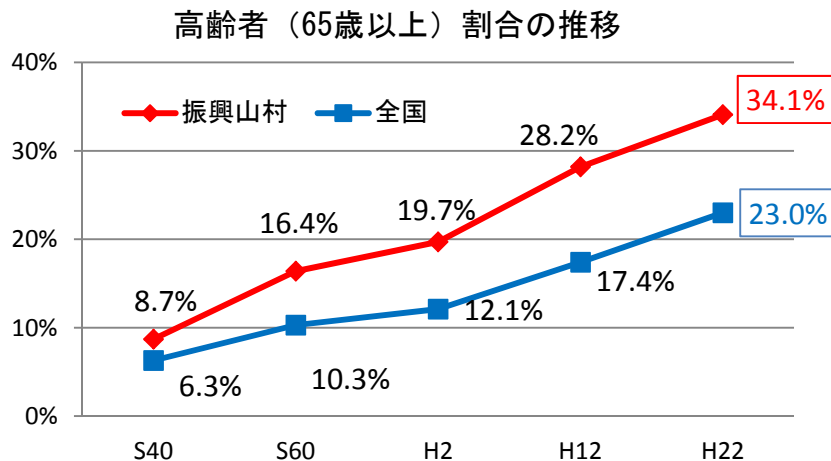
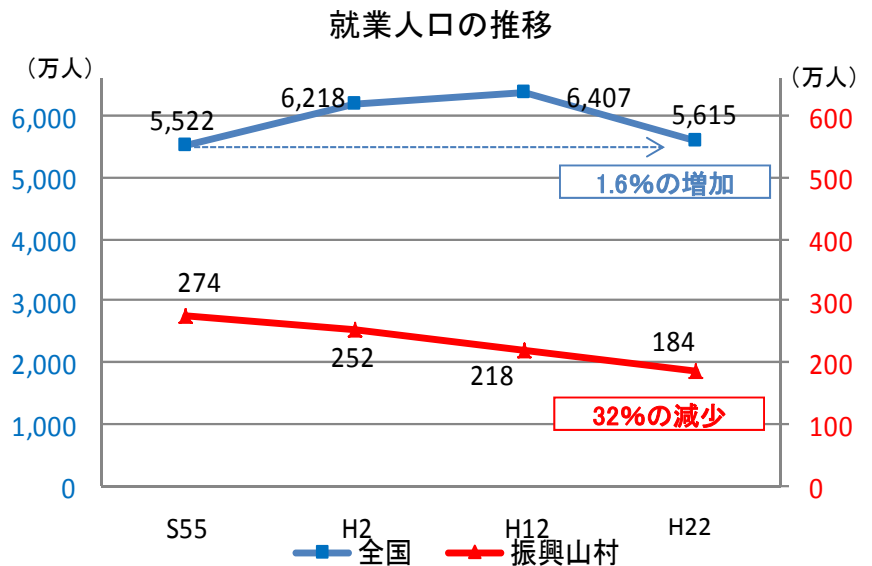
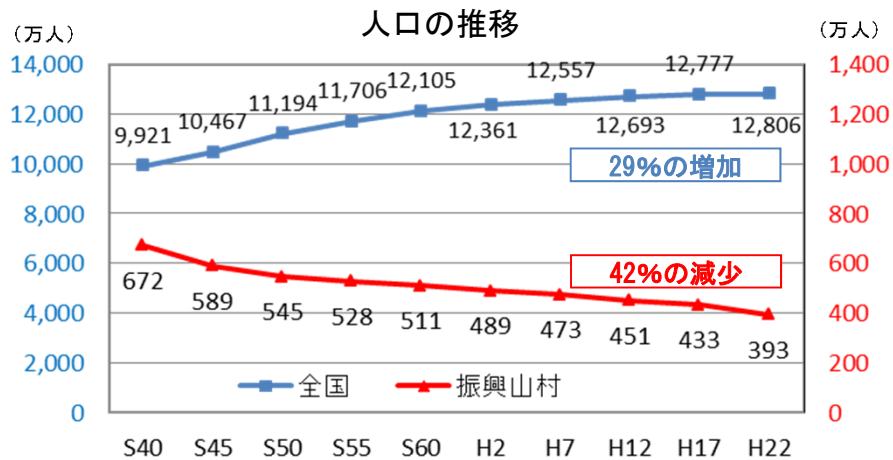
【森林の水源かん養機能】 水資源貯留機能の比較



3 山村の実情

(1) 人口動向と高齢化等

- 振興山村の人口は、昭和40年から平成22年までの45年間で42%減少している(全国は29%増加)。
- 平成22年における65歳以上の割合は34%となっており(全国平均23%)、他地域に先がけて高齢化が進行している。
- 就業人口は、昭和55年から平成22年までの30年間で32%減少している。



資料：農林水産省「山村カード調査」、総務省「国勢調査」
 注：振興山村の人口、高齢者数及び就業人口は、農林水産省農村振興局で推計。

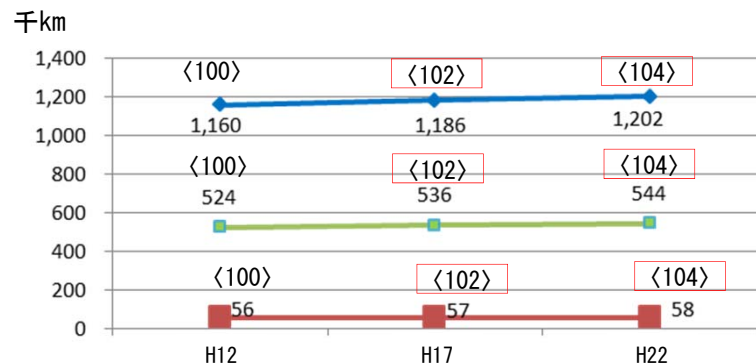
(2) 生活環境の整備状況

① 道路、下水処理施設

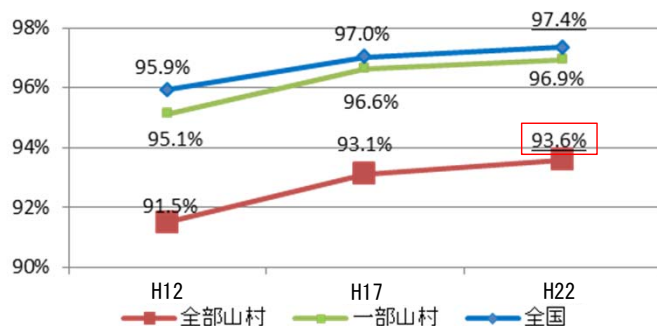
- 道路の整備は、全国、一部山村及び全部山村とも同等の伸び率で進展している。また、主要道路の舗装率は、全部山村で約94%（全国約97%）と一定の水準に達している。
- 下水処理施設の整備を水洗化率でみると、全国との格差が縮小する傾向にあるが、特に全部山村においては、まだ十分とは言えない水準にある。

◇ 道路整備の状況

道路実延長 〈 〉内は2000年を100とした指数

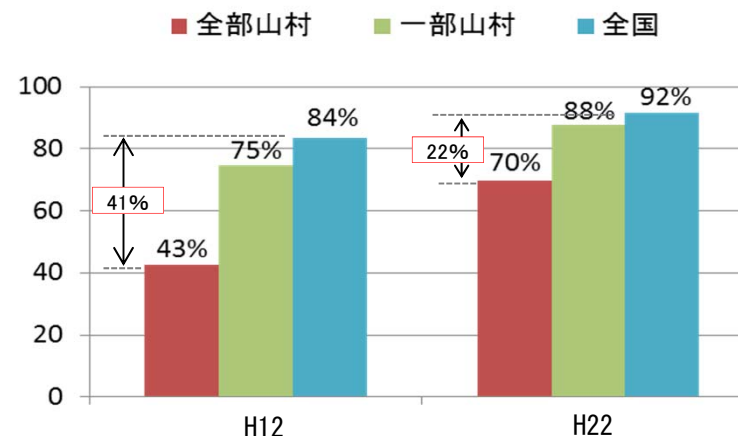


舗装率（主要道路）



資料：国土交通省「道路統計」、都道府県資料

◇ 水洗化率

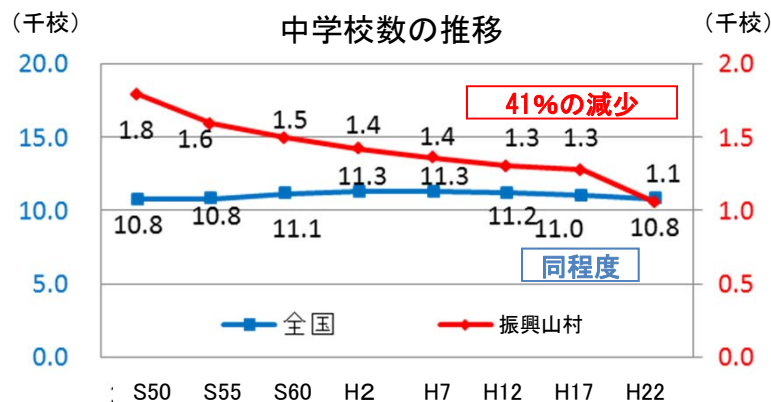
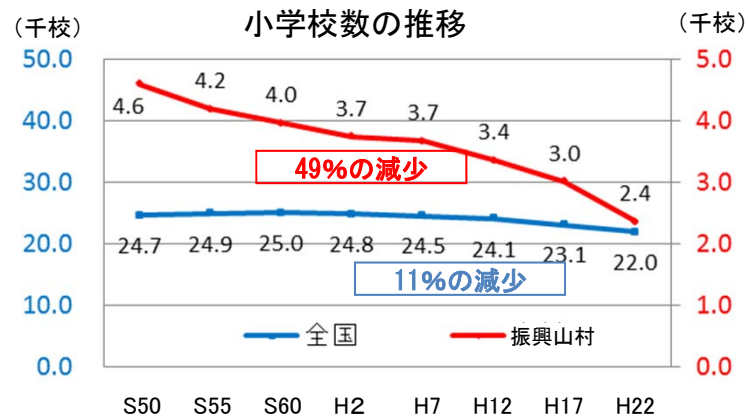


資料：環境省「日本の廃棄物処理」、農林水産省「山村カード調査」

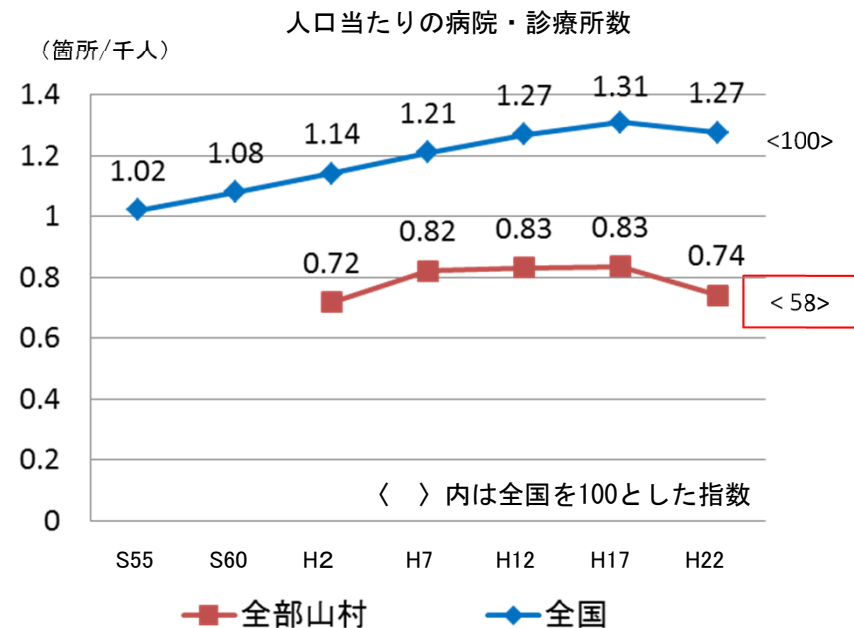
②教育機関、医療機関

- 学校数は一貫して減少し、昭和50年と平成22年とを比較すると、小学校数は49%減少(全国は11%減少)、中学校数は41%減少している。
- 病院・診療所数は、人口当たりで見ると全部山村で全国の58%の水準(平成22年)であり、近年は減少傾向にある。

◇教育機関



◇医療機関



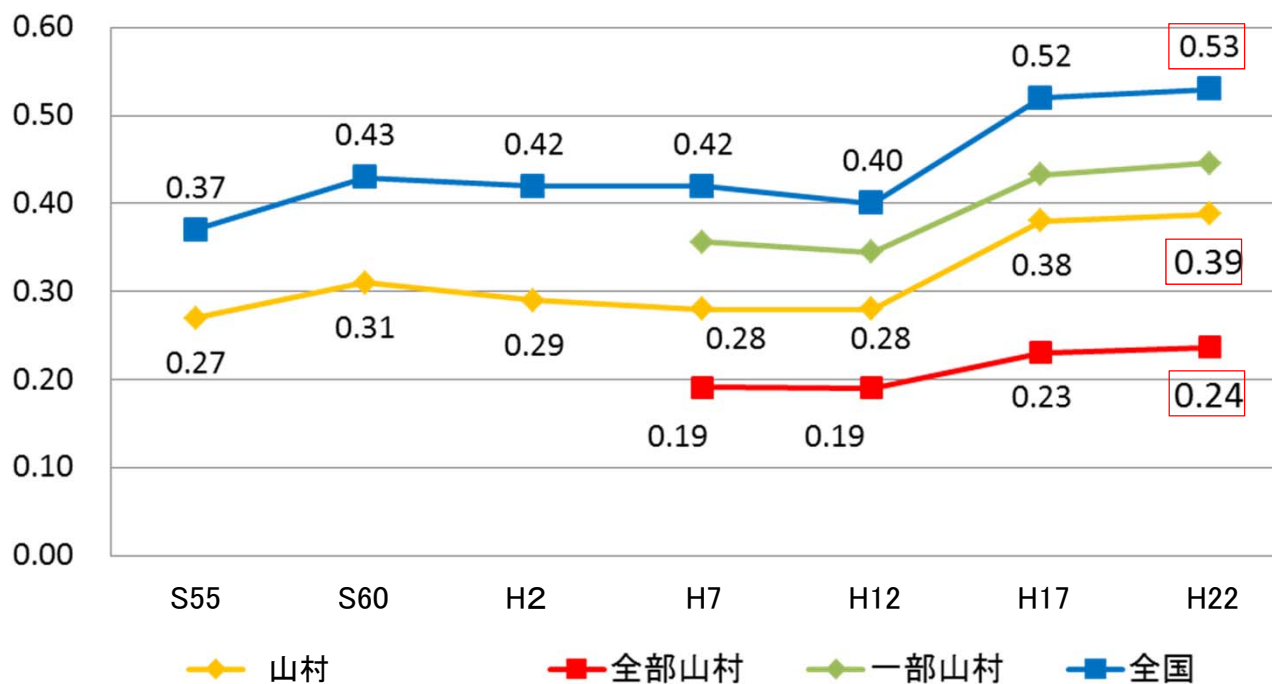
資料：総務省「公共施設状況調」

資料：文部科学省「学校基本調査」、農林水産省「山村カード調査」

(3) 市町村の財政状況

○ 山村の財政力指数は平均で0.39、全部山村のみでは0.24となっており、全国平均の0.53を大きく下回り、厳しい財政状況となっている。

山村と全国平均の財政力指数の比較



資料：総務省「市町村別決算状況調」

注：財政力指数とは地方公共団体の財政力を示す指標として用いられるもので、基準財政収入額を基準財政需要額で除した数値の過去3年間の平均値を指す。